

# 10月9日のウクライナ情報

安齋育郎

## ①負傷詩人と詩情を分かち合う(21023年10月6日)

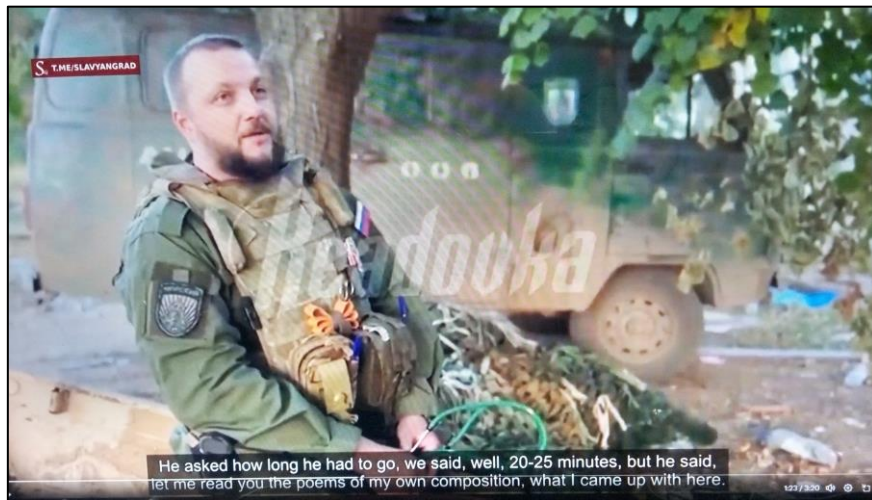
「子供たちのため、兄と母のためだ！祖国ロシアのために！」 - ある負傷したロシア兵は、クレシェフカ近郊から彼を避難させてくれた医師たちに、自作の詩を朗読して感謝の意を表した。

アレクサンドル・ネフスキーにちなんで命名された医療小隊が、巡回中に彼が道路に倒れているのを発見した。停車するのは困難で、車両は横たわっている人を運ぶのに適していなかったにもかかわらず、医師たちは彼を助けることにした。まだ旅には時間があるとわかると、彼は自作の詩を披露したいと申し出た。この感動的な話は、「ハウス」として知られる小隊長が語った。

「彼の話聞きながら、痛みを耐えているこのような状態の人間が、私たちと詩を分かち合う強さを見出すことができることに、私たちは深く驚きました」と、ハウス医療司令官はこの心温まる出来事の詳細を語った。

アレクセイはノリリスク出身。クレシェフカ近郊での激しい戦闘で、複数の破片による傷を負った。

<https://twitter.com/i/status/1709882259803681090>



## ②元 CIA 職員、攻略が難しいロシアの兵器について語る(2023年10月6日)

ロシアの極超音速ミサイルは攻略が難しく、それに対する防御も事実上存在しない。米中央情報局(CIA)の元職員レイ・マクガバン氏が、ジャーナリストのスティーブン・ガードナー氏の YouTube チャンネルの番組で語った。

マクガバン氏によると、ロシアの新型ミサイルの多くはマッハ 7~9 の速度に達することができる。同氏はこれに関連して、このようなミサイルに対する防御は単に存在しないと指摘した。

マクガバン氏は「ジョー・バイデン氏(米大統領)でさえも、ロシアがウクライナのさまざまな重要拠点に向けて発射した一部のミサイルに対する防御方法はないことを認めた」と述べた。

また同氏は、米政府はロシア政府及びロシア軍の攻撃能力を過小評価すべきではないと強調した。マクガバン氏は、そのような対応は米国に悪影響をもたらすおそれがあるとの見方を示した。



<https://sputniknews.jp/20231006/cia-17323867.html>

### ③スロバキア大統領、ウクライナ支援に反対(2023年10月6日)

スロバキアのズザナ・カプトワ大統領は議会選挙の結果を受け、ウクライナ支援を停止する必要があるとの考えに至った。現地メディア「Dennik M」が報じた。

スロバキアで行われた議会選挙では新露派の野党「スメル」が勝利した。これを受けカプトワ大統領は、ウクライナには「一発たりとも銃弾を供与しない」と選挙活動で主張していた政党を有権者が支持した以上、民意を尊重する必要があるとの考えに至ったという。

大統領府のマルティン・ストリジネツ報道官は国家元首の決定についてコメントした中で、「民主的な投票の結果を尊重する」必要性について語った。

スロバキア議会選挙では1日、野党・スメル(方向・社会民主主義)が得票率22.94%を獲得して第1党となったことが明らかとなった。同国元首相のロベルト・フィツォ党首は同党が政権を樹立できれば、ウクライナにまつわる和平交渉を始めるためにあらゆる努力をすると述べた。

フィツォ氏は、スロバキアからの武器供給は停止されるが、ウクライナへの人道支援は継続すると付け加えた。

フィツォ氏は、2022年4月に地対空ミサイルシステム「S300」をウクライナに供与したことについて、スロバキア当局を繰り返し批判していた。同氏はまた、MiG-29戦闘機は憲法に著しく違反してウクライナに供与されたと主張した。フィツォ氏は、スメルが議会選挙で勝利した場合、ウクライナ軍への軍事装備品の供与を停止すると約束。同氏によれば、ウクライナへの武器供与は人々の死につながり、紛争を長引かせるだけだという。



<https://sputniknews.jp/20231006/17324623.html>

#### ④資金不足の米政府、国務省の余り予算でウクライナ支援の継続目指す＝米メディア (2023年10月6日)

バイデン政権は議会で追加資金配分の決定がない場合、ウクライナ向け兵器供与の資金源として国務省の補助金・融資プログラムを利用する可能性がある。米紙ポリティコが情報筋の話として報じた。

米議会で兵器供与の資金源を巡る攻防が続く中、バイデン政権は国務省の補助金プログラムを利用してウクライナへの軍事支援継続を目指している。

国務省はパートナー国による武器や防衛装備の購入に必要な資金を提供するプログラムを用意しており、その予算が残っているという。報道によると、議会がウクライナと「ウクライナ情勢の影響を受けた国々」に対する追加予算として割り当てた総額 46 億ドル(約 6830 億円)の海外向け資金のうち、9月21日時点で約 6 億 5 千万ドル(約 965 億円)が残っているとのこと。

ただし、米政府が予算の再分配を決定したとしても、これを実行するには議会の許可を得る必要がある。

先に国防総省のパトリック・ライダー報道官は必要に応じて国防予算の他項目からウクライナに資金を割り当てることができるとしつつも、現時点でその計画は無いと表明していた。

米連邦議会では9月30日、45日間にわたって政府への資金提供を継続する共和党の予算案が承認された。ただし、同法案にウクライナ支援は含まれない。米政府は共和党が協力を拒否していると非難している一方、共和党は国境で生じている移民危機の解決を含む政府の行動を支持していない。ウクライナ支援が予算に盛り込まれたことも障壁となった。一部議員はウクライナ支援が含まれる限り、つなぎ予算の採択には反対票を投じると述べていた。特に共和党トランプ派として知られるマージョリー・テイラー・グリーン下院議員は、次年度本予算でもつなぎ予算であってもウクライナ支援が含まれている場合は反対票を投じるとしている。



<https://sputniknews.jp/20231006/17324783.html>

#### ⑤「1対0でプーチン大統領に有利」、クリントン氏がロシアの世界的影響拡大に懸念を示す(2023年10月5日)

世界におけるロシアの影響力増大はウラジーミル・プーチン大統領の功績にほかならない。ヒラリー・クリントン元米国務長官がPBSニュースの取材に応じた中で指摘した。

元国務長官は取材の中で、プーチン大統領とその「チーム」が西側の基盤を揺るがし、政治指導者を自らの側に引き入れていると指摘した。ロシアメディアやロシア政府高官らの主張を多くの政治家や

市民が口にしてしている現状を踏まえ、「1 対 0 でプーチン大統領に有利」とクリントン氏は指摘した。

ただし、イデオロギー的および党政治的分断を克服する必要があるとしつつ、大多数の議員はウクライナを支持し続けていると評価した。

また、米国ではプーチン大統領の政策に対する人気が高まっているとも分析した。そのうえで、「この戦いは私たちの戦いだ。率直に言って、プーチン側につく米国人は理解できないが、私たちはそれを目撃しているし、耳にしているし、戦わなければならない」と述べた。



<https://sputniknews.jp/20231005/10-17313826.html>

## ⑥—数千人が、NATO とウクライナへの軍事支援に反対するため、ニューヨークの街頭に出た(2023年 10 月6日)

参加者たちはプラカードを掲げた。

「戦う相手は人種差別だ。ロシアじゃない！」

「財政支出は戦争ではなく教育と雇用対策に！」

<https://twitter.com/i/status/1710086946666811577>



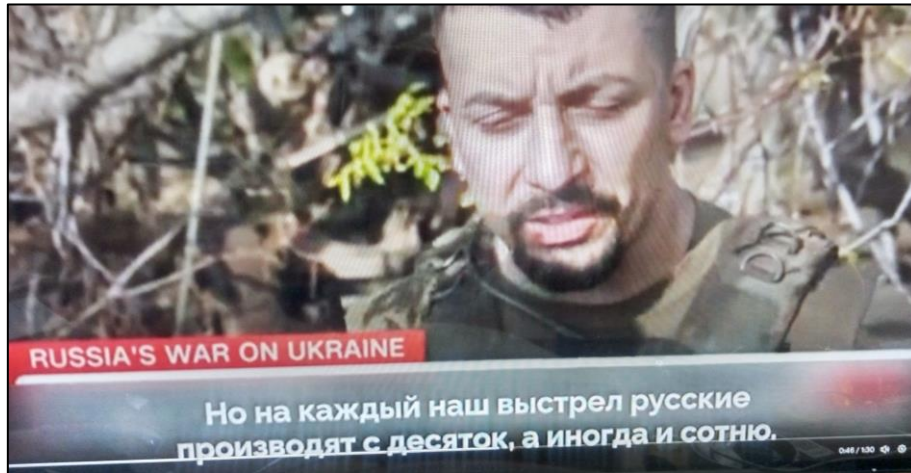
NATO とアメリカ帝国主義に終止符を！

## ⑦西側の深刻な弾丸不足(2023年10月6日)

CNN の報道によると、ウクライナへの砲弾供給が続く中、西側諸国は深刻な弾薬不足に直面し始めた。

その結果、キエフの軍事支援に関する不確実性が生じ、ウクライナ軍の反撃の成功に対する疑念が増大している。

<https://twitter.com/i/status/1710089260261638493>



## ⑧ウクライナ領土防衛隊、米国人トランス女性の報道官を停職処分 サラ・アシュトン＝シリロにポロシェンコ元大統領が電話？(2023/09/27)

久しぶりに、ロシアのいたずら電話コンビ「ヴォヴァンとレクサス」がポロシェンコ元大統領になりすましてニセ電話。

<https://youtu.be/VkXh3jGVP10>



## ⑨2023年10月5日 ヴァルダイ国際討論クラブ(プーチン大統領の発言簡易まとめ)

我々はクリミアとセヴァストポリの住民の支援に従事している、(ウクライナのような)『ナチスの精

神に基づく民族浄化』で脅迫しなかったし、ドンバスを爆撃で征服しようとしたこともなかった

私たちは今、新しい世界を築くという課題に直面している

この 20 年は世界秩序崩壊の時代だった

人類の地球規模の問題には集団的な解決策が必要であり、『利己主義』と『自惚れ』は行き詰まることになる

世界は第二次世界大戦から教訓を得ていたと思っていた

私たちは『覇権への道』は紛争につながると警告したが、アメリカとその取り巻きの国々はその道へ進んだ

西洋の歴史は終わりのない拡大の記録であり、巨大な金融ピラミッドである

西側諸国の傲慢さは常軌を逸している

西側諸国の繁栄は、主に『地球全体の強奪』と『際限のない拡大』によってもたらされた

私たちは絶えず増大する軍事的・政治的圧力に対応することを余儀なくされた

私たちはウクライナでいわゆる戦争を始めたわけではない

特別軍事作戦は、西側諸国が 10 年間にわたって繰り広げてきた戦争を終わらせることを目的としている

西側諸国はあらゆる境界線を越えた(ルールや国際法を破った)が無駄に終わった

西側諸国は常に敵を必要としている

それは覇権国としての内部統制に必要なことだ

ウクライナ危機は領土紛争ではない

ロシアは世界最大の領土を持っている

私たちはまだ、シベリア、東シベリア、極東を開発する必要がある

『西側エリートは自分たちに従わない全ての人を敵に仕立て上げる』

独立して行動し、自国の利益のために行動する者は誰であっても西側諸国に排除される対象となる

西側諸国は国際法を自分たちの都合の良いものに置き換えようとしている

私たちはそれに従って生きなければならないらしい、どんなルールだ？

国連憲章は一度ゴミ箱行きにするべきだろう

米国はヨーロッパに経済路線を押し付けている

現実を直視してほしい、植民地主義の時代はもう終わった

そして、もう二度とそうはならない

世界の統一は現代世界にとって異質なことだ

各国は独自の発展の道を進みたいと考えている

ロシア文明を分割することはできない

ますます多くの国が自国の利益とニーズ、アイデンティティーを認識し始めている

世界は、国家と文明の相乗効果に向かって進んでいるのだ

西側諸国は妥協という言葉を知らない

何としてでも自分たちの利益を押し通したいと考えている

それがどういう結果をもたらすか、観察しましょう

私たちは世界の多様性が発展の基盤になることを望みます

『(たぶんアメリカの)選挙の後には国内の政治的変化が起こり、全く逆のことが押し進められるだ

ろう』

私たちは全ての人のための正義を支持します

搾取の時代は過去のものです

私たちは平等を支持します

自分のニーズを他人に依存させるつもりはありません

ロシアはこれまでも、これからも世界システムの基盤の一つである

『誰にも世界を支配する権利はない』

私たちは多極世界が確立されると確信しています

未来の世界は、集団決定の世界だ

ロシアは全ての国と建設的な交流を行う用意があるが、独裁主義を主張する者には厳しい対応をする

文明とは、まず人間である

ロシアには多様性があり、誰も障壁を作らない開かれた世界に住みたいと考えている

『私たちは伝統と価値観を守ります』

アメリカはより多くの紙幣を印刷するでしょう(ウクライナの支援もあるので)

アメリカにとって紙幣を印刷してばらまくのに何の抵抗もない

コロナ期間中には 9 兆ドル以上印刷している

欧州の経済状況はアメリカよりもはるかに悪く、主要経済は停滞している

欧州の多くの生産拠点は閉鎖され、アメリカに移転している

ロシアは今年の第三四半期には財政黒字になる予想

失業率も 3%という記録的な数字になっており、経済の再構築が始まっている

ガスと石油の収入は減少したが、それでも+3%だった

主な成長は製造業で、ガスと石油以外では+43%だった

非友好国が導入した制裁後に生じたすべての問題を克服した

欧州は経済を犠牲にし、国民の状況をさらに悪化させることでのみウクライナを支援することができる

反転攻勢が始まって以来、ウクライナ軍は 9 万人の兵士と 557 台の戦車を失った

正気であればロシアに核戦争を挑まないだろう

もし挑んだ場合は生き残りがいなくなる

もしかすると、核実験禁止条約から離脱するかも

カナダ議会で演説したナチスの退役軍人は悪党だ

カナダはウクライナ軍とナチスを同列に置いた

つまり、非ナチス化という我々の目標を認識していることを意味する

カナダ議会在、ヒトラーとその手下たちがロシアと戦ったことを知らないとしたら、ただの愚か者だ

私たちの共通の目標はウクライナ非ナチス化である

ゼレンスキーがカナダ議会でナチスに拍手したとき、ホロコーストは決して起きなかったとでも思ったのだろうか？

ヨーロッパの主権がなくなったことは多くのヨーロッパ人が認めている

私たちはヨーロッパと手を切るつもりはないし、何かを押し付けるつもりもない

ロシアは衰退しつつある欧州市場から離れ、アジアを含む成長市場へ移ろうとしている

ノルドストリーム爆破の前にバイデンはロシアのエネルギー供給を阻止するためのあらゆる手段を講じると発言していた

ノルドストリーム爆破事件は国際テロ行為と呼ばれたが、なぜかロシアは捜査への参加を許されなかった

ノルドストリームを弱体化させることでどこが利益を上げることができるのか？

『アメリカ』だ

(たまにロシアが爆破したという陰謀論を言う人がいますが、わざわざ危険を犯して爆破しに行かなくても、元栓閉めればいいだけなので…)

ロシアは西側へのガス輸送の際に通過するウクライナに、紛争中だが手数料を払っている、相手国に対する義務を果たしている

ウクライナでの紛争(内戦)は 2014 年に始まったが、日本はそれに気付かないことを選んだ(日本が苦境に立たされていることについて)

日本に対して制裁を課したのはロシアではない、日本がロシアに対して制裁を課したのだしかし、私たちは対話の用意があります

日本が国交正常化に率先して取り組みば、ロシアは協力する用意があります

ロシアはウクライナの EU 加盟には反対しないが、NATO 加盟には断固反対する

EU 加盟はウクライナ経済に悪影響になるだろうというヤヌコビッチ元大統領の発言は完全に正しかった

今日のウクライナ経済は、もはや外部支援なしでは存続できない

ウクライナから軍事支援を剥奪すれば、1 週間以内に消滅するだろう

ドイツの野党が台頭しているのは、与党が誰もドイツの利益のために戦わないからだ

NATO はアメリカの外交政策の一部である

BRICS は単一通貨を作る必要はないが、統一された決済システムを確立し、各国通貨での決済に切り替える必要がある

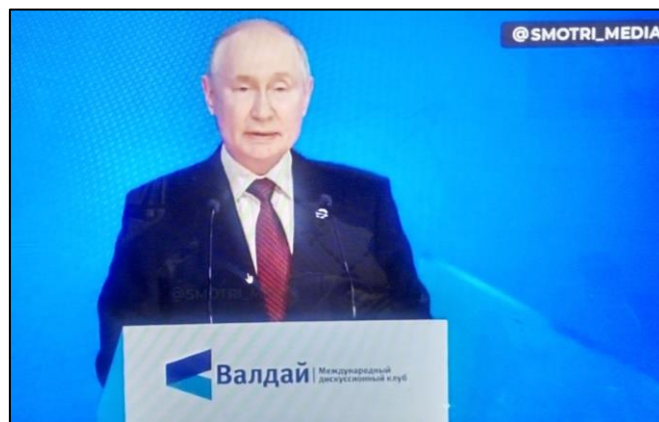
今日のロシアの強さは主権を強化したおかげである

ロシア国民の 335,000 人が国防省との契約に署名した

ワグネルの元兵士数千人も契約を結んだ

最後は『多極化世界の到来は避けられない』という言葉で締めくくりました

<https://twitter.com/i/status/1709981572848620012>



<https://twitter.com/Tamama0306/status/1709981572848620012?t=NkK2PGRSsABNTorTHkKhjw&s=09>



## ⑩ウクライナ紛争はロシアを強くし、西側を零落させている＝マクレガー大佐(2022年12月27日)

米軍退役大佐のダグラス・マクレガー氏は、ユーチューブチャンネル「StraightCalls with Douglas Macgregor」のインタビューで、米国とその同盟国はロシアを破壊するために出来る限りのことをしているが、その結果、自分たちの経済を損ね、自分たちの国の状況を不安定にしていると語った。

マクレガー氏は、西側諸国には多くの政治家がいるが、誰一人として国のために活動しているとは言えないと指摘した。なぜなら、国のために働く人々は難しい問題を提起したり、先見の明を持っているが、政治家たちは目の前の利益を得るためにプロパガンダを推進しているだけだからだという。マクレガー氏は、2022年2月24日以降、これらの政治家は状況をウクライナの勝利に向けた1つの長い行進のように体裁よく見せかけ、その中には彼らが含まれる軍産複合体の利益を促進してきたとし、その結果、ワシントンの所謂シンクタンクの大部分は米国が介入できる戦争や紛争などの数が増えることに賛同しているが、西側は事実上、財政破綻しているため、これはもちろんナンセンスだと強調した。

マクレガー氏によると、米国の公的債務残高は30兆または31兆ドル(約4200兆円)。米国は現在、第二次世界大戦後の1947年に英国が対GDP比での政府債務残高240%を記録したときと同じ状況にある。このように米経済は目の前で崩壊しており、これは主にウクライナ危機に国が巻き込まれているのが原因だが、大多数の米国人はウクライナがどこにあるのかさえ知らず、気にもかけていないという。彼らにとってははるかに気がかりなのは、自分の家庭で起こっていることだとマクレガー氏は強調している。

マクレガー氏によると、最も恐ろしいのは権力側にある西側のエリートたちがロシアのような大国との紛争に自分たちの国を引き込もうとしていることだ。イラクやアフガニスタンの場合のように、反撃手段を持たない敵に対するだらだらとした紛争は別だ。マクレガー氏は、そこでは「未経験な若者たちに対する苛酷な制裁」が行われたと述べている。しかしロシアは強力かつ有能な敵だ。だが最も興味深いのは、ロシアが西側との戦いをまったく望んでいないことだとマクレガー氏は強調した。ロシアは自国に対する脅威に終止符を打つことを望んでいるだけだ。一方、米国とその同盟国は過去20年間にわたってウクライナを後に対ロシアで利用するためにたゆまぬ努力を続けてきた。

マクレガー氏はインタビューで、当局に対して何度も「西側はなぜロシアと対立しようとしているのか?」「どこでロシアの利益と米国の利益が衝突しているのか?」と質問を投げかけたが、まともな回答は得られなかったと述べた。そして同氏は、ワシントンとロンドンでは豊富な資金を持つ少数派がロシアを破壊することに深い関心を持っており、リベラルなスローガンで自分たちの見苦しい行為をカモフラージュしていることを理解したという。

マクレガー氏は愛国者だが、現在のロシアは紛争前より財政的にも経済的な意味でも強いことを認めざるを得ないという。また同氏は、この紛争を終えたときロシアは当初よりもはるかに強大かつ高い戦闘能力と大きな破壊力を有した軍隊を持つ国となるだろうとの確信を示している。マクレガー氏はインタビューの最後に「したがって、すべてが我われにとって不利な状況となっている。なぜなら、米国の覇権や米国主導の英米覇権をその他の世界に押し付けようとすることはもはやできないからだ。その他の世界はこれを望んでいない。正直に言えば、我われにとってもこれは必要ではない。これは私たちを零落させている。そしてロシアとウクライナの紛争は、このプロセスを加速させているだけだ」

と述べた。

ロシア外務省のザハロワ報道官は先に、米国の政策はロシアと米国を直接的な衝突の瀬戸際に立たせると表明した。

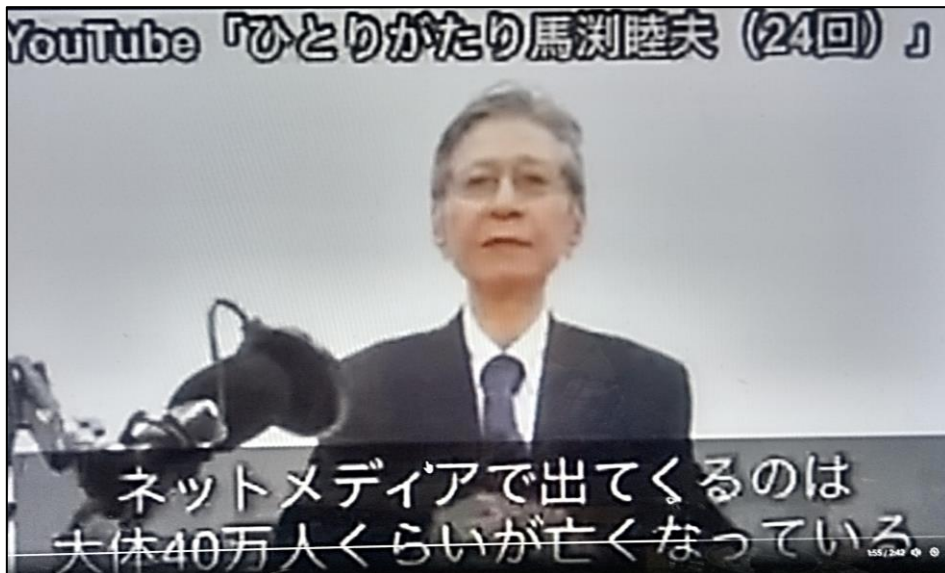


<https://sputniknews.jp/20221227/14403348.html>

### ⑪馬淵睦夫氏が暴露【岸田総理は日本国を売ってしまわれたのです】(2023年10月6日)

- ウクライナ解体の為の費用は日本が払います。
- ウクライナ軍は存在しません！
- それを陰謀論と言う“ビジネス保守” 🗨️
- G7 は世界の少数派
- 日本はディープステートのポチ

<https://twitter.com/i/status/1710076989296828577>



### ⑫速報！ウクライナ軍、数千人単位で離脱 NATO の戦争で死ぬことを拒否 | Redacted News (一部既報)

2023年9月30日)

<https://youtu.be/xyyps0QaSc8>



### ⑬露大統領の対ウクライナ戦略が効果を発揮＝米メディア(2023年10月7日)

ウラジーミル・プーチン大統領はウクライナ支援で西側諸国の疲労が増大することに賭けてきたが、現在はその計画が実現する様子を目の当たりにしている。米メディア、ビジネス・インサイダーが報じた。

ビジネス・インサイダーは米中央情報局(CIA)のロシア分析部門で局長を務めたジョージ・ビーブ氏の言葉を引用し、プーチン大統領の判断が「正しいという兆候がますます増えている」と記している。ウクライナは徴兵制に対処できず、経済は戦争の圧力で低迷し、米国と欧州では支援疲れが顕著になっているという。

記者は西側の支援疲れに賭けた策が功を奏したと指摘する。米連邦議会下院の共和党極右派はケビン・マッカーシー議長の解任を要求し、スロバキアでは先にウクライナ支援の停止を主張する政党が議会選挙で勝利。そしてドイツでは極右政党「ドイツのための選択肢」が人気を集め、その指導者らはロシアとの関係がささやかれているという。

報道によると、欧州連合のジョゼップ・ボレル外交安全保障上級代表は米国の参加がない場合、ウクライナへの財政的・軍事的援助は大幅に不足すると分析している。

こうした状況が組み合わさると、西側によるウクライナへの支援が徐々に先細り、やがて急激に減少するか、枯渇すると記者は記している。

先に米紙ワシントン・タイムズは紛争が長引くにつれ、西側ではウクライナ支援疲れが顕著になっていると報じた。ウクライナが戦果を上げていないことも影響していると指摘した。



<https://sputniknews.jp/20231007/17340312.html>

#### ⑭独首相、長距離巡航ミサイルをウクライナに供与できない理由を明かす(2023年10月7日)

ドイツ連邦軍はウクライナ国内であれ、国外であれ、長距離巡航ミサイル「タウルス」の整備に参加することはできない。ドイツのオラフ・ショルツ首相がウクライナへのミサイル供与に関する条件を問われた中で発言した。発言の様子は Phoenix テレビが放送した。

ショルツ首相はグラナダで開かれた欧州首脳らの非公式首脳会議に出席した。会議後の会見でウクライナへのミサイル供与に関する質問に答えた中で、「われわれは個々の決定について個別に同意する」としつつ、「ウクライナ領土外であっても、いかなる活動であれドイツ軍兵士が参加することはできない」と語った。

一方、米紙ニューヨーク・タイムズが独連邦議会国防委員会のマリー＝アニエス・ストラック＝ツィンマーマン委員長(ドイツ国防コンツェルンのロビー活動下でもある)の話として報じたところによると、米国がウクライナに作戦戦術ミサイル ATACMS の供与を発表すれば、ドイツは「タウルス」をウクライナに供与する可能性があるという。

ストラック＝ツィンマーマン委員長によると、ショルツ首相は強い圧力を受けており、「タウルス」供与に関する議論に終止符を打ちたいと考えているという。ただし、米国が ATACMS 供給を正式に公表すれば、ドイツ側も供与に踏み切る可能性があるとのこと。

ニューヨーク・タイムズ紙によると、ロシア軍が戦場で「タウルス」の部品を回収して組み立てることができれば、これに対抗するシステムを開発できる可能性があるとしてドイツ側は懸念している模様。また、「タウルス」を供与した場合、ドイツ兵をウクライナに派遣して整備させる必要性が生じることも懸念材料となっている。

先にジョー・バイデン米大統領は ATACMS をウクライナに供与する見通しについて問われた中で、米国はゼレンスキー氏の要求をすべて処理したと回答した。しかし、まだウクライナへの ATACMS 供与は正式に発表されていない。

ショルツ首相は「タウルス」供与の決定を遅らせている理由を問われた中で、ウクライナには多大な支援を提供しているとしたうえで、ウクライナ紛争が NATO とロシアの戦争にエスカレートすることは望んでいないと述べた。

「タウルス」供与に関する主な争点は、ミサイルの射程にある。ミサイルの射程は 500 キロメートルに設定されているため、ロシア領も射程に収めている。ドイツの専門家コミュニティは、ロシア領を攻撃できないようミサイルをプログラミングできないかについて意見を交わしている。



<https://sputniknews.jp/20231007/17340135.html>

## ⑮ギリシャ首相がウクライナへの資金提供に反対、「欧州に不利益」(2023年10月7日)

自然災害に直面する欧州国民への支援を犠牲にしてまでウクライナに大幅な追加資金を割り振ることはできない。ギリシャのキリアコス・ミツォタキス首相がグラナダで開催されている非公式の欧州理事会終了後、記者団に語った。

理事会でミツォタキス首相は欧州連帯基金を強化するため、欧州の災害対策予算を少なくとも 25 億ユーロ(約 3955 億円)増額することを提案したという。首相は会合で欧州理事会に対し、ウクライナに大幅な追加資金を提供しながら同時に欧州国民を支援することは不可能であると主張した。欧州では自然災害に直面する国民向けの連帯基金が資金枯渇に直面しており、その予算は「ウクライナに提供している資金よりもはるかに少ない」とミツォタキス首相は不満を漏らした。

ギリシャ中部のテッサリアでは 9 月初旬、大雨により洪水が起きていた。そこでギリシャ政府は被災者に対し、最大限の資金提供をしていた。ただし、自国による努力だけでは不十分とし、将来的な災害に備えるためにも連帯基金を 25 億ユーロ増額し、その予算を総額 650 億ユーロにすることを提案した。



<https://sputniknews.jp/20231007/17339991.html>